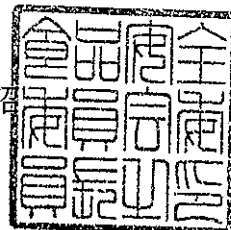




府食第917号  
平成16年9月9日

農林水産大臣  
亀井 善之 殿

食品安全委員会  
委員長 寺田 雅昭



食品健康影響評価の結果について

平成15年11月11日付け15消安第3368号をもって農林水産大臣から食品安全委員会委員長に意見を求められた遺伝子組換え食品等のうち、下記のものについては、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」(平成16年5月6日 食品安全委員会決定)に基づき、その安全性に問題はないと判断しましたので通知します。

なお、審議結果については別添のとおりです。

記

- ・申請者：日本モンサント株式会社  
品目：ラウンドアップ・レディー・テンサイ H7-1 系統 (飼料)

(別添)

## 遺伝子組換え飼料「ラウンドアップ・レディー・テンサイH7-1系統」 に係る食品健康影響評価に関する審議結果

### I はじめに

食品安全委員会は食品安全基本法に基づき、農林水産省より、「ラウンドアップ・レディー・テンサイH7-1系統」の飼料の安全性の確認に係る食品健康影響評価について意見を求められた。(平成15年11月12日、関係書類を接受)

食品安全委員会(遺伝子組換え食品等専門調査会)においては、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき、当該遺伝子組換え飼料を家畜が摂取することに係る畜産物のヒトへの健康影響について評価を行った。

### II 評価対象飼料の概要

飼料名 : ラウンドアップ・レディー・テンサイ H7-1 系統  
性質 : 除草剤グリホサート耐性  
申請者 : 日本モンサント株式会社  
開発者 : モンサント社(米国)、 KWS Saat AG 社(ドイツ)

「ラウンドアップ・レディー・テンサイH7-1系統」は、除草剤グリホサート存在下でも機能するCP4 EPSPS タンパク質を発現する *cp4 epsps* 遺伝子が導入されたテンサイである。CP4 EPSPS タンパク質を発現させることで、本組換えテンサイは、除草剤グリホサート(商品名:「ラウンドアップ」)を散布してもその影響を受けずに生育する。

一般に、テンサイは製糖原料作物として栽培され、収穫後、根部から砂糖を抽出した搾り粕(ビートパルプ)が、通常約200℃、約25分の条件で乾燥された後、主に牛用の飼料として利用される。本組換えテンサイについても、その利用方法は同様である。

本組換えテンサイと従来のテンサイの相違は、本テンサイがCP4 EPSPS タンパク質の発現により、除草剤グリホサートの影響を受けない点である。

### III 食品健康影響評価結果

(a) 本組換えテンサイは、除草剤グリホサート耐性の形質を付与したものである。なお、除草剤耐性の遺伝子組換え作物を飼料として用いた動物の飼養試験において、挿入された遺伝子もしくは当該遺伝子によって産生されるタンパク質が畜産物に移行することはこれまで報告されていない。

(b) 本組換えテンサイは、平成15年6月30日に、厚生労働省において、「組換えDNA技術応用食品及び添加物の安全性審査基準」に基づく、食品としての安全性審査を終了しており、ヒトの健康を損なう恐れがあると認められないと判断されている。このため、CP4 EPSPS タンパク質の安全性は既に評価されている。

上記(a)、(b)を考慮したところ、本組換えテンサイ由来の新たな有害物質が生成され、これが肉、乳、卵等の畜産物中に移行することは考えられず、また、畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能

性や遺伝子組換えに起因する成分が家畜の代謝系に作用し、新たな有害物質が生成されることは考えられない。

なお、本品種では、栽培期間中のグリホサート散布が可能となることから、念のため、収穫物中に残留したグリホサートが畜産物中に移行して問題となる可能性について確認した。

この結果、ラウンドアップを散布して得られたテンサイのウェット及びドライパルプでのグリホサートの残留量は0.21～4.27ppmであった（参考資料①）が、これまでの我が国の配合飼料等における残留調査結果で、配合飼料中のグリホサートの残留量は最大0.36ppmであり（参考資料②）、加えて、乳牛、豚、鶏等を用いた試験により、飼料中にグリホサートを7.5ppm以上添加した場合にのみ畜産物に残留することが明らかとなっている（参考資料③）ことから、安全性上の問題はないと考えられた。

以上のことから、遺伝子組換えテンサイ（品目名：「ラウンドアップ・レディー・テンサイ H7-1 系統」）については、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方（平成16年5月6日食品安全委員会決定）」に基づき、食品健康影響評価は必要なく、当該飼料を家畜が摂取することに係る畜産物の安全性上の問題はないものと判断される。

#### IV 参考資料

- ① グリホサート残留試験結果（モンサント社社内資料）
- ② 飼料の有害物質による汚染実態調査報告書：財団法人畜産生物科学安全研究所（2001）
- ③ 飼料中の農薬等有害物質の畜産物における残留調査報告書：社団法人日本科学飼料協会（2000）